

## 4-1-12-1 病理検査室

### 1. 診療活動

病理検査室では病理組織診、細胞診、病理解剖を柱とした業務を行っている。通常のHE染色に加えて、各種特殊染色、種々の抗体を用いた免疫組織化学的検査や電子顕微鏡的検索を積極的に行い、胎児・胎盤・小児疾患、産科・婦人科疾患などに関する病理診断を行っている。高度先進検査室と密接に連携し、FISH, DNA解析を駆使した遺伝子診断を合わせて、精度の高い診断を行っている。臓器・造血幹細胞移植後の拒絶反応や種々の合併症については、治療方針の決定にかかせない迅速な病理診断を行い、移植成績の向上に貢献している。さらに、研究所との人的交流も積極的に行い、腫瘍について、キメラ遺伝子の解析やCISH法による遺伝子増幅や転座などの分子生物学的解析を行っている。また、周産期関連では臨床医をまじえて、胎児治療に直結する胎盤血管の検索などの症例検討を行っている。

院内の臨床-病理カンファレンス(ICU、腎臓科)の定期的開催、院内合同カンファレンス(腫瘍、胎児)への参加、他施設からの病理研修生の受け入れを行っている。また、関東・東海・東北地区の小児病理専門医の症例検討会も当センターで開催し、活発な意見交換が行われている。日本小児病理研究会会員への情報発信にもかわり、わが国における小児病理の拠点として活動している。

### 2. 研究活動

高度先進検査室、研究所発生分化研究部との密接な連携のもと、小児固形腫瘍を対象として病理学的、細胞生物学的ならびに分子生物学的な解析方法を用いた研究を行っている。

小児固形腫瘍(ウイルムス腫瘍、横紋筋肉腫、ユーイング肉腫、神経芽腫)小児悪性リンパ腫の多施設共同研究においては、中央病理診断、検体保存施設として、臨床と基礎研究を結ぶ中心的役割をはたしている。

周産期高度先進医療センターの病理部門として、稀少症例の蓄積を通じた周産期病理、とくに胎盤病理にかかわる情報発信、意見交換を周産期診療部とともにやっている。

腎疾患治療指針に役立つ病理診断基準の作成と標準化を目的とした腎病理診断センター、腎ネットワークの一員として、小児腎疾患の病理診断を積極的に行っている。

### 3. 病理研修生

2006年4月より、渡辺紀子先生がレジデントとして病理専門医を目指して研修を行っている。

### 4. 病理検査件数(平成18年度)

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
組織迅速顕微鏡	6	9	4	6	4	3	3	14	5	8	6	9	77
組織顕微鏡検査	105	116	103	139	135	116	141	136	126	133	123	126	1499
組織顕微鏡 2臓器 n×2	22	23	26	32	40	17	25	18	20	26	24	31	304
組織顕微鏡 3臓器 n×3	5	1	2	1	0	3	3	2	1	2	3	3	26
電子顕微鏡検査	3	5	6	6	9	6	12	8	12	7	6	9	89
免疫抗体法検査	19	16	15	34	26	25	30	27	25	29	18	22	286
病理組織検査(12)計	192	195	186	252	254	193	245	227	211	235	210	237	2031
細胞診(婦人科)	147	147	163	149	146	170	172	155	141	145	163	131	1829
細胞診(その他)	45	43	37	24	43	32	29	30	27	43	38	50	441
細胞学的検査(13)計	192	190	200	173	189	202	201	185	168	188	201	181	2270
剖検数(38)計	0	3	2	0	3	0	2	3	1	1	1	3	19
ブロック数(39)計	40	80	80	120	0	40	0	40	0	80	160	80	720